

どたばた政界

最近、政界が目まぐるしく変化する。東北関東大震災後の日本の政局はあわただしく変化してしまった。想定外の津波被害、原発漏れの汚染被害からはじまり、被災者の心のケア、食糧不足、非難場所の確保、経済的な補償問題、職を失ってしまった人たちをどうするのかなどなど、さまざまな問題に取り組むべき事柄がある。数を数えればきりがないほどである。その数々の諸問題にいち早く取り組むべき内閣があまり機能していない。

機能しているのは「管おろし」といわれる、総理大臣を辞めなさいという事だ。地震発生から3カ月がたとうとしているこの時期にこのごまである。皆が協力しないでどうするのだ。管さんは言っていた。与野党協力してこの日本の危機を乗り越えていかなければならないと。それなのに協力するどころか、早く辞めろという。やめて誰が総理大臣になるのか。誰がなっても同じだろう。今必要なことは、協力して物事にあたるという事だ。確かに管内閣は3カ月の間後手後手にまわった感じがする。

しかし、これは協力体制が十分整っていなかったからではないだろうか。今では同じ民主党の中でも内閣不信任案に賛成してしまう議員さんもいる。皆勝手なことを言いすぎる。皆勝手なことをやりすぎる。なぜ協力しないのか。私は納得がいかない。小沢さんや鳩山さんについていなくても別にいいではないか。皆が選んだ人を協力もせずには今度はやめろというのは話が違いすぎるのではないかと思う。こういう意見がまとまらないのは議員が多いからではないのか。いずれにしても議員が多すぎるというのは以前から言われている。

TVをつけてみると内閣不信任案は否決された。しかも、先頭に立っていたはずの小沢さんは欠席をしている。このような結果になったのは総理の決断であったという。「責任の所在を明らかにする。そして一定のめどがついた段階で若い人にこの責任を引き継いでほしい。」こういう結論になった以上はいままでのスローペースではなくどンドンすすんでほしい。また、そのような要因はもうないはずだ。これらの諸問題に直ちに以前にまして取り組むべきではないだろうか。苦しんでいる人、それを待っている人がいるという事を忘れないでほしい。

(2011. 6. 2)